

行政経営のポイント	これまでの議論	議論を踏まえた大きな方向性	左に係る論点整理	左に関連する個別的論点
<p>県の役割の明確化</p>	<p>○行政経営を考えるときには、無駄な業務・事務を減らす、効率化する視点とともに、県がやるべき業務であるかという視点も必要ではないか。</p> <p>○県の役割は、具体的に一個ずつ考えていくと膨大な時間が掛かるから、概念的に整理せざるをえないのでは。</p>	<p>⇒中長期的なあるべき姿として、県の役割を概念的に整理し、県の実施する業務を明確にする。</p>	<p>⇒長期的な姿としての県の役割は、どのように整理したらよいか。</p> <p>⇒国や市町との連携(権限移譲を含む)はどのような視点で進めるか。</p>	<p>⇒「県・市町パートナーシップのあり方検討協議会」報告の考え方を踏まえて、どう考えるか。</p> <p>⇒総務省「広域連携が困難な市町村における補完のあり方に関する研究会」の報告をどう考えるか。</p> <p>⇒市町への権限委譲に係るこれまでの取組をどう評価するか。</p>
<p>効果的な事業への財源シフト</p>	<p>○個々の業務や事務を効率化・改善していくことに加え、どういった事業にどの程度取り組むかという視点での管理にもバランスよく取り組んでいく必要がある。</p> <p>○業務の選択と集中について、やるべきことに資源を集中させることが大事である。無駄な仕事はなく、それをやめるといった判断は難しいが、大切である。</p>	<p>⇒限られた財源をより効果的な事業にシフトさせる取組が必要である。</p>	<p>⇒限られた財源の中で、より効果や効率の高い施策・事業へ展開するにはどうすればよいか。</p>	<p>⇒施策効果の低い歳出を見直し、効果の高い歳出に転換する仕組みをどうつくるか。</p> <p>⇒効果的な成果把握をどうするか。</p> <p>⇒EBPM(証拠に基づく政策形成)の推進の動きをどう考えるか。</p>
<p>多様な主体の参画</p>	<p>○事業の必要性や効果等をしっかり説明し、説明責任を果たしていくことも行政経営の大切なポイントで、県民の理解や協力を得ないと、施策・事業は効率的に進まないのではないか。</p> <p>○アウトソーシングはどんどんやっていたらなければならないと思うが、そのコストをしっかりと把握しないとならない。</p>	<p>⇒県民等の多様な主体の理解や活動参画、民間等のノウハウの活用を促す取組が必要である。</p>	<p>⇒県民等の理解や協力、参画・行動の促進は、どのように進めるか。</p> <p>⇒民間活力の活用は、どのような取組を進めるか。</p>	<p>⇒地域の課題の解決に県民等の力をどのように活かしていくか。</p> <p>⇒県政の見える化やオープンデータの取組は十分か。</p> <p>⇒県民等や事業者等の主体的な取組をより促すためのインセンティブを組み込むか。</p> <p>⇒アウトソーシングや指定管理者制度の導入は、どのような視点で取り組むか。</p> <p>⇒総務省のトップランナー方式にどう対応するか。</p>
<p>行政経営のスリム化・効率化</p>	<p>○業務の効率化は個人の意識で対応するアプローチでは難しくなっているのではないか。業務を分析し、無駄な業務を抽出するなどしないと変わらない。</p> <p>○毎年度100億円の収支不足を改善しようとすると、今持っている施設などを持たなくすといった、思い切った提案も必要かもしれない。</p> <p>○県の出資法人のマネジメント向上について、中長期的にしっかりと取り組んでみては。</p>	<p>⇒県民ニーズの実態を踏まえ、事務の簡素化等により、行政運営や行政サービスの提供を効率化する取組が必要である。</p>	<p>⇒行政経営のスリム化のために、どのような取組を進めていくか。</p> <p>⇒行政経営の効率化のために、どのような取組を進めていくか。</p>	<p>⇒県の地方機関の圏域の現状をどう評価するか。</p> <p>⇒公の施設は、どのような視点であり方を考えるか。</p> <p>⇒出資法人は、どのような視点であり方を考えるか。</p> <p>⇒事務の集中化や、業務の見直しや仕事の効率化に向けた平成29年度の働き方改革の取組は十分か。さらにもどのような取組を拡充するか。</p> <p>⇒行政手続きの簡素化に向けて、どのような取組を拡充するか。</p>

行政経営のポイント	これまでの議論	議論を踏まえた大きな方向性	左に係る論点整理	左に関連する個別的論点
組織力・職員力の向上	<p>○組織の縦の連携をとれ、横の連携をとれば、仕事の構造や目的、理念が分かり、効率化が図れるのではないかと。</p> <p>○目標管理は、トップが定めた目標を庁内の全員に展開することであるが、これをしっかりとすると、上下の連携が取りやすくなり、トップマネジメントが楽になるのではないかと。</p> <p>○経営を考えたときに、職員が働きやすく、働き甲斐があることが一番の基本ではないかと。</p> <p>○質の高い行政サービスの提供のために、職員の心身の健康管理推進については、高い目標を持ってはどうか。</p>	<p>⇒業務の担い手である組織・職員が、能力を発揮できるような取組が必要である。</p>	<p>⇒組織マネジメントの強化や職員の人材育成にあたっては、どのようなことに留意するか。</p> <p>⇒職員の健康管理や多様な働き方の推進にあたっては、どのようなことに留意するか。</p>	<p>⇒組織マネジメント強化に向けた平成29年度の働き方改革の取組は十分か。さらにどのような取組を拡充するか。</p> <p>⇒職員の年齢構成の変化や係制の導入に対応して、どのような視点で取り組むか。</p> <p>⇒組織目標による目標管理をどう評価するか。</p> <p>⇒職員の健康管理や多様な働き方の推進に向けた平成29年度の働き方改革の取組は十分か。さらにどのような取組を拡充するか。</p>
財政基盤の確立	<p>○行革債は、全部県で償還していくということになるから、これありきではなく考える必要があるのではないかと。</p> <p>○基金を取り崩しや行革債の発行をいつまでも継続するのではなく、ので、将来的には収支をゼロにもっていかなければならないのでは。</p> <p>○財源不足への対応は、これまでなかなか実効性をもってできなかったところをもう少しやり方を変えて進めていく必要があるのでは。</p> <p>○健康寿命は大切であり、これを延ばすことによって県の負担も減っていくのではないかと。</p> <p>○国体は、十分コストを意識しながら取り組んでいく必要があるのではないかと。</p> <p>○収入を得る動きがもう少しあったらよいのではないかと。</p>	<p>⇒持続可能な財政基盤の確立に向けて、歳出・歳入両面からの取組を進める必要がある。</p>	<p>⇒歳入の確保を図るため、どのような取組を進めていくべきか。</p> <p>⇒どういった視点で歳出の見直しを進めていくべきか。</p>	<p>⇒ネーミングライツや広告、寄附などの新たな歳入確保の取組は十分か。新たな歳入確保の方策として、どのような取組を拡充するか。</p> <p>⇒既存事業の見直しは、どのような視点で行うか。</p>
目標の管理等	<p>○行政経営における達成状況を的確に評価するために、どのような目標を設定すべきかについて、整理が必要であり、目標の設定を誤ると、大事なところが見落とされてしまうことになるのではないかと。</p> <p>○委員会として、目標を実現してくださいと県に言うだけでは無責任なので、どういう考え方で実現していくのかということまで示していかないとならない。</p> <p>○目標は、努力目標では甘いのではないかと。</p> <p>○ハードルの高い目標を設定しなければならない中では、計画の進捗に対する見直しも考慮が必要ではないかと。</p> <p>○経営理念は、どういう滋養にしたいか、滋養ならでの夢の部分が入ってこない、皆さんに伝わらないのではないかと。</p>	<p>⇒行政経営における達成状況を的確に評価できる目標を、その方策や見直しの仕組みと併せて、適切に設定する必要がある。</p>	<p>⇒目標設定はどのようなことに留意して設定するか。</p> <p>⇒目標変更の仕組みはどのように考えるか。</p>	<p>⇒第5期行政経営改革委員会報告の考え方を踏まえて、どう考えるか。</p>

※各方向性の関係は、別添のとおり

県の役割の明確化

中長期的なあるべき姿として、県の役割を概念的に整理し、県の実施する業務を明確にする。

取組の方向性

効果的な事業への財源シフト

限られた財源をより効果的な事業にシフトさせる取組が必要である。

多様な主体の参画

県民等の多様な主体の理解や活動参画、民間等のノウハウの活用を促す取組が必要である。

行政経営のスリム化・効率化

県民ニーズの実態を踏まえ、事務の簡素化等により、行政運営や行政サービスの提供を効率化する取組が必要である。

組織力・職員力の向上

業務の担い手である組織・職員が、能力を発揮できるような取組が必要である。

財政基盤の確立

持続可能な財政基盤の確立に向けて、歳出・歳入両面からの取組が必要である。

目標の管理等

行政経営における達成状況を的確に評価できる目標を、その方策や見直しの仕組みと併せて、適切に設定する必要がある。

